

秋の古墳めぐり

津山 *VERSION*

1998. 09. 20

備陽史探訪の会古墳研究部会

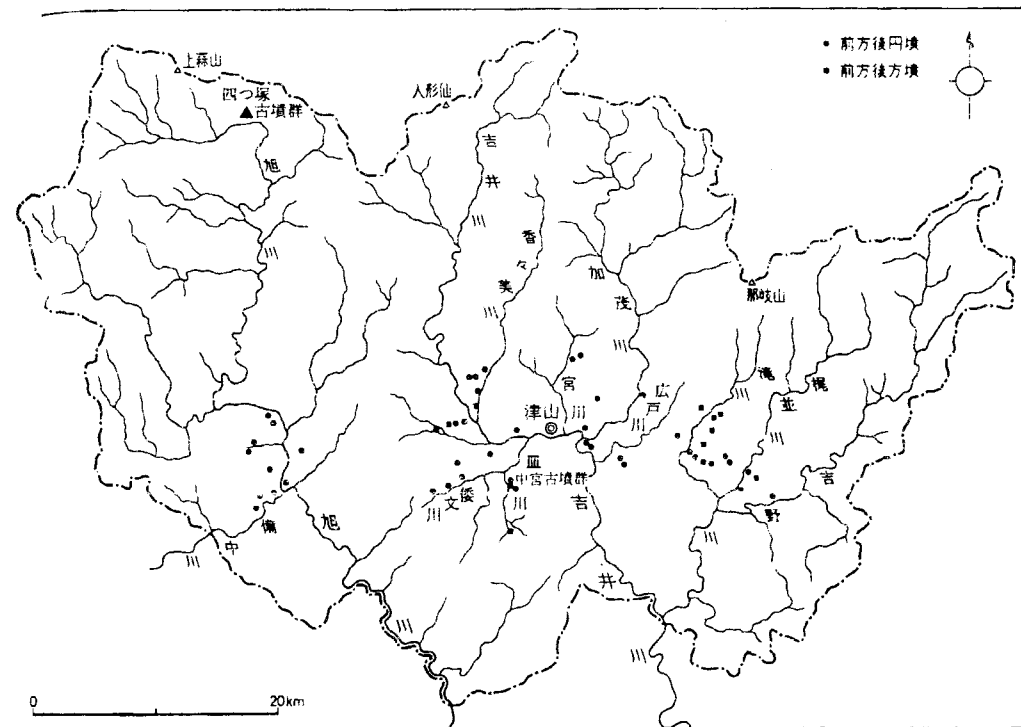
一日の行程

- 7:30 福山駅北口出発
- 休憩（久米道の駅）
- 9:30 佐良山古墳群
- 剣戸塚古墳群（東塚、西塚）
- 中宮1号古墳
- 10:40 日上天王山古墳
- 11:00 日上畝山古墳群
- 11:40 津山郷土博物館
- 12:20 衆楽園（昼食）
- 13:30 沼弥生住居址群・埋蔵文化財センター
- 14:30 美和山古墳群
- 17:00 福山駅

背景

津山盆地は、吉井川流域にできた東西二〇キロ、南北五キロにおよぶ平地であるが、北から流れ下った吉井川は、この平地に西から向きを東に転じ、東西に長い平地の中を約七キロばかり東流し、盆地の東端で、北東から流れだした支流、加茂川と合して再び南下していく。この広い盆地からは、北東に標高一二四〇メートルの那岐の山並みがのぞまれ、中国山地内にあつて、東西、南北の交通の要路ともなっている。こうした地理的な条件は、原始・古代以来の多くの遺跡を残す地ともなったのである。

(『日本の古代遺跡 23 岡山』保育社 1985)



第35図 美作地方首長墳分布図

(安川豊史「美作」『前方後円墳集成中国・四国編』山川出版社 1991年より引用一部改変)

佐良山古墳群

「美作やくめのさら山さらさらにわがなは立てしよろづよまでに」
古く延喜5年紀貫之等の勅撰にかかる古今和歌集に歌われ、以後、その静かなる秀麗な山の起伏と四囲の美しい景観とが、様々な人々によって、吟詠の対象となったさら山は、また更に遠く、古代国家発展途上の作州の山野に活躍した多くの無名の人々の舞台でもあった。累々と、山麓山腹に連なる夥しい数の古墳墓の群は、點々と、その事実を、示している。

『佐良山古墳群の研究 第1冊』近藤義郎 津山市1952)

吉井川支流皿川の両岸域の丘陵斜面にあり、十数群172基の存在が知られている。墳丘規模は、径15m以下のものが80%を占め、内部主体は不明や未発掘を除くと90%以上が横穴式石室であり、また陶棺を内蔵するものが多数あり、陶棺密集地域を形成している。

剣戸塚古墳群

現在14基が確認されている

○剣戸西塚（第13号墳）

径約17m、高さ4mの円墳

南東に開口する無袖式横穴式石室

（現存長9.7m、幅1.65m、高さ2.4m）

奥に近く陶棺半身が土に埋もれたまま認知される

○剣戸東塚（第14号墳）

径約19m、高さ4mの円墳

南東に開口する横穴式石室（現存長9.8m、幅1.7m、高さ1.6m）

- * 江戸時代、日蓮宗不受不施派の日勢聖人と4人の尼僧が断食死した法難の地でもあり、“比丘尼塚”の名がある。石室には断食中に5人が刻んだ「南無妙法蓮華經」の文字が残っている。

○中宮一号古墳

全長23m、後円部径18m、高さ5mで円丘に低い方形の造り出しを持つ。
葺石はないが裾部には石室開口部を除いて円筒埴輪列がめぐる。

内部主体—後円部…横穴式石室

小塊状の石材を持ち送り積みにした片袖式

玄室長4.25m、幅2.62m、高さ2.1m、羨道長3.55m、
幅、0.9m

三体の埋葬が確認されており、遺物は玄室内から須恵器、
土師器、ガラス小玉、刀、鉄族、馬具、生産用具
玄室袖部には四重がさねの土師器壺、須恵器はそう、
須恵器壺、大型器台

造り出し…小形竪穴式石室



中宮一号墳石室

日上天王山古墳

平成6年3月から6月にかけて発掘調査される。

全長 56.9m、後円部径 32.4m、前方部長 25.6m、後円部高 6.35m、前方部高 3m
の前方後円墳。前方部は低くバチ形に開き古式前方後円墳の様相を呈する。
墳丘斜面には葺石が葺かれ、後円部は三段、前方部は二段に築成されているが
埴輪は用いられていない。

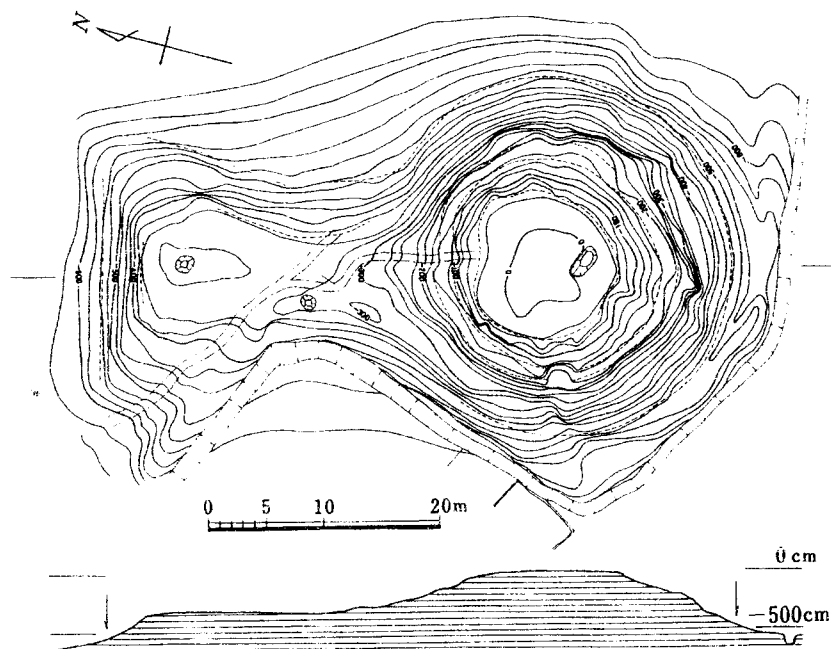
埋葬施設は竪穴式石室

中心石槨は内法 6.1×0.8m、第二石槨 3.1×0.8m、他箱式石棺 2基

中心埋葬施設からは直刀、鉄鏃、鉄剣など

第二石槨からは振文鏡 (7.9cm)、鉄剣、鉄鏃など

東くびれ部から櫻井茶臼山古墳型の二重口縁壺



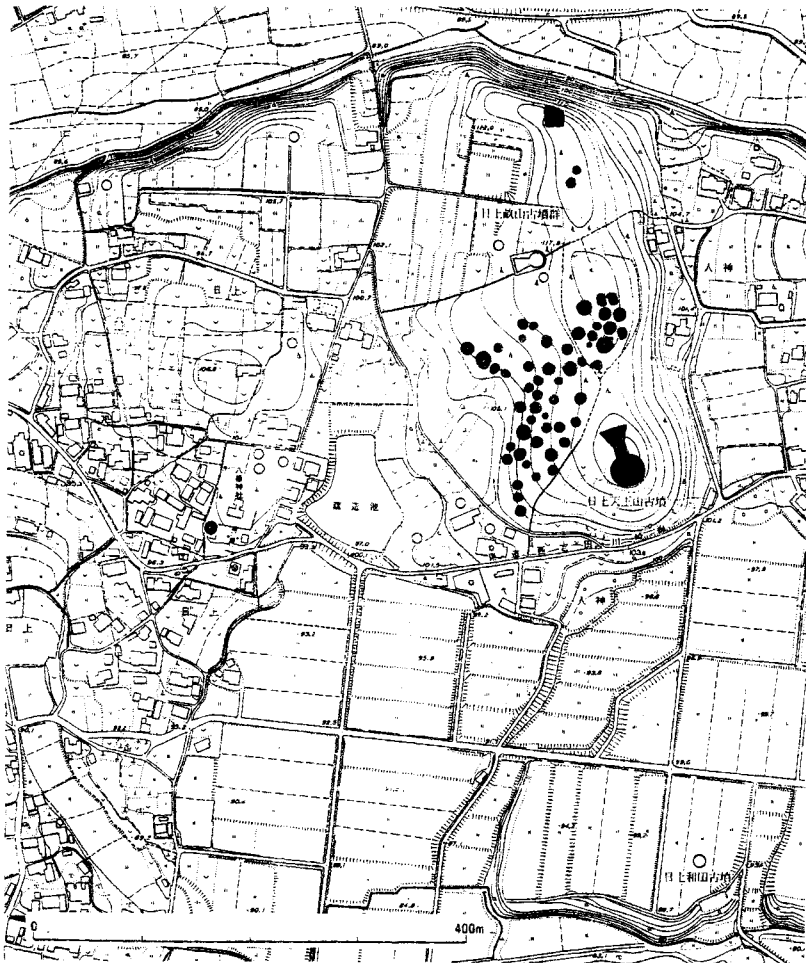
日上天王山古墳墳丘実測図

日上畝山古墳群 (前期群集墳)

平成7年から9年にかけて発掘調査が行われた。

日上畝山丘陵に直径10m前後の小古墳が56基存在する。1基は方墳で中心埋葬の竪穴式石室は天王山古墳の第2石槨に類似する。他の1基は粘土槨が中心埋葬施設。

最も古い1号古墳は4世紀後半、大半は5世紀末から6世紀初頭にかけて集中的に築造される。



日上畝山古墳群全体図 (1:5,000)

X = -105360

X = -105400

X = -105440

X = -105480

X = -105520

Y = -27280



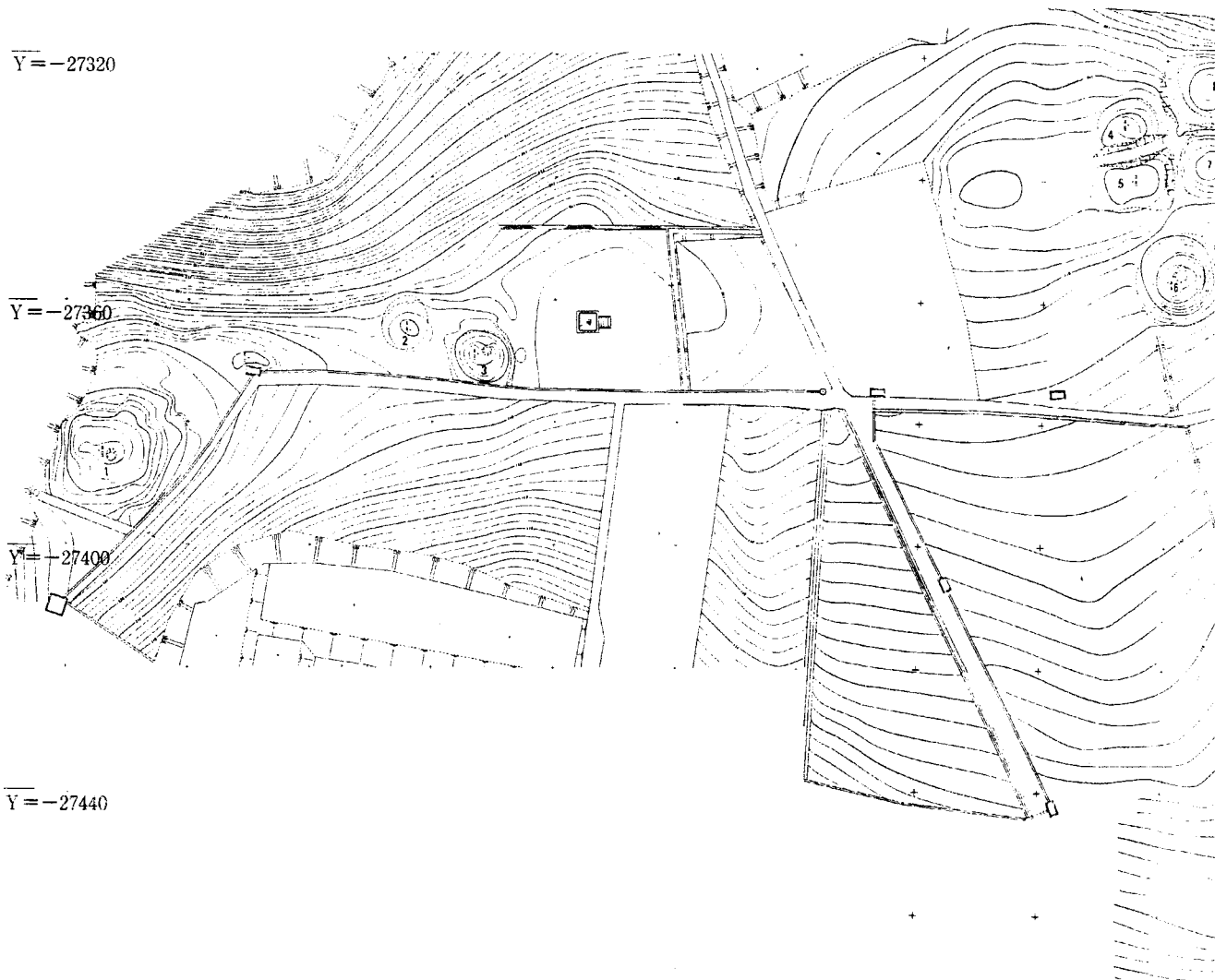
Y = -27320

Y = -27360

Y = -27400

Y = -27440

Y = -27480



第4圖 日土畝山古墳群主要

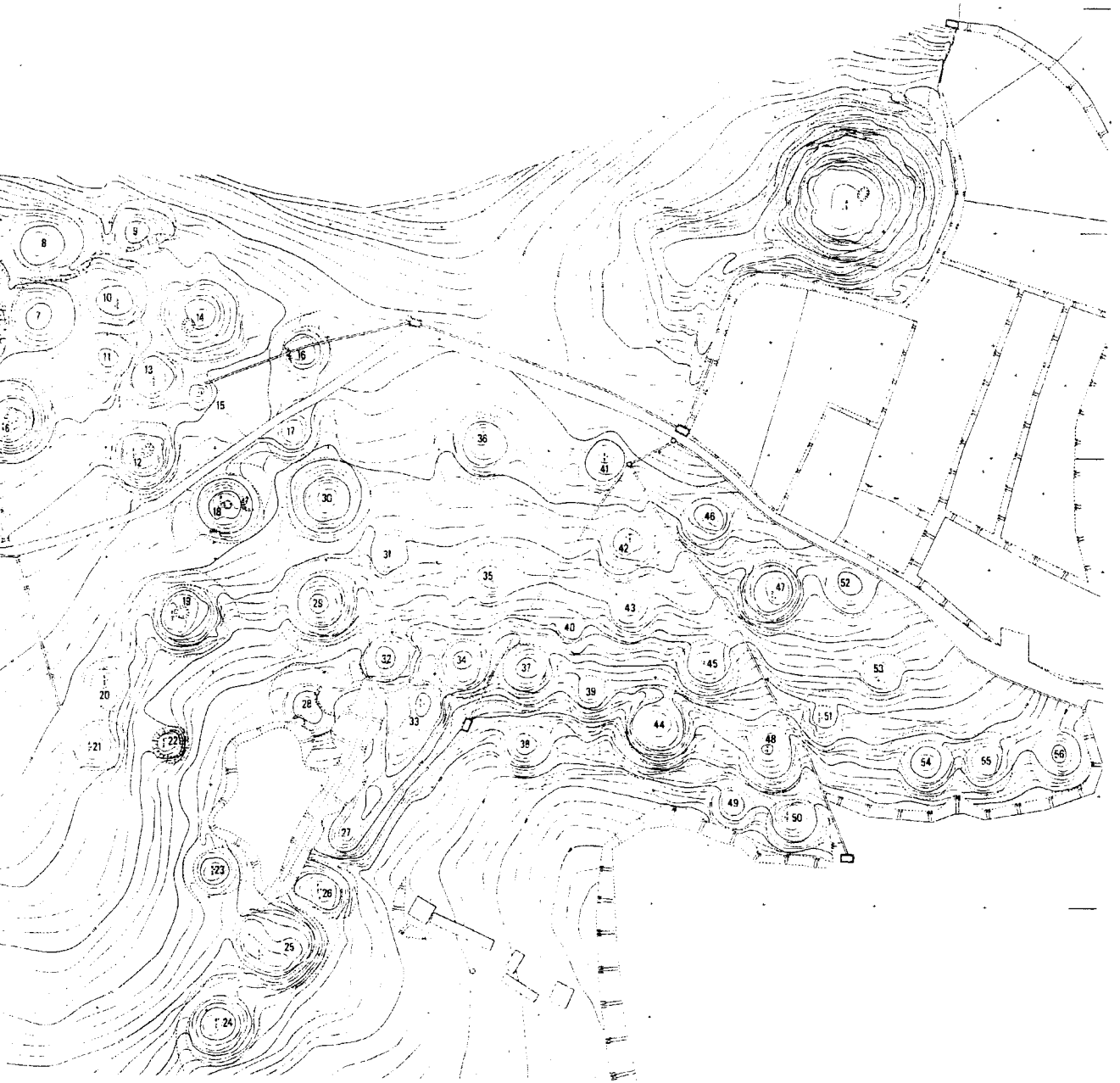
X = -105560

X = -105600

X = -105640

X = -105680

X = -105720



0 100m

群主要部測量図 (1:1,000)

衆楽園（昼食場所：市指定名勝）

現在の衆楽園は回遊路を持つ池泉のみの庭園であるが、元の姿は広大な御殿や馬場や菜園などと組み合わされた広大な敷地を擁する近世初期の大名庭園であり、明暦3年(1657)森藩2代藩主長継の時代には北御屋敷と称されていた。衆楽園の庭園には神仙思想の影響が見られ、様式としては近世初期を示している。また、小堀遠州が造園に関わっている京都仙洞御所庭園との類似などから、衆楽園が遠州の作であると言われているが、未だ十分解明されていない。松平家時代には北御屋敷を修復した上で御対面所と改称したが、敷地の縮小が実施され、主に縮小された西南部は農地となっていたが、御対面所は庭園部分を主たる敷地として存続していた。

明治時代になると名称、管理を変えながら現在に至る。

沼弥生住居址群

昭和26年の夏、北園高校（現津山商業高校）に勤務していた平野勇（故人）は、大正末か昭和初期に志戸部や沼と紫保井の往来を容易にするためにつくられた切通しを通りがかっていた。平野はもともと古代の遺跡に興味を持ち、ひまを見つけては遺跡を求めて山野を散策するのが趣味であった。そのとき、ふと見上げた切り通し道の斜面上端にクロボク（火山灰が成因と見られる黒色土）の充満した大小2箇所（箇所）の切り込みに目がとまったのだった。これが沼遺跡発見の発端である。

発掘調査はその年の晩秋に取りかかれ、同年末には終了している。当時は集落遺跡を全面的に発掘調査するといった例は静岡県の登呂遺跡以外にはなく、また岡山大学生を始め市内各高校生などが広く発掘調査に参加したため内外の関心は高く、市民注視の中で発掘調査は実施された。

3次にわたり調査されたこの沼遺跡で発見された遺構には、円形、隅丸方形などの竪穴住居址5棟、8×3mの長方形竪穴址1棟、幅1m、深さ0.5mの溝状遺構、高床倉庫址と考えられる柱穴群などがある。

出土遺物には、中、後期の弥生式土器片多数、石包丁、扁平片ば石斧、石鎌、たたき石、砥石、A住居址からはヤリガンナ、ガラス小玉なども発見された。

美和山古墳群（国指定史跡）

南方の吉井川に張り出す細長い低丘陵に位置する古墳群。史跡公園に伴う部分的な確認調査以外発掘調査歴はない。

○1号古墳（胴塚）

前方部を西に向ける墳長 80m の前方後円墳。

後円部径 48m、前方部の占める比率は比較的小さい。前方部が後円部頂に比べ約 4 mほど低く側面形は古式古墳の特徴に一致し、平面形は行燈山古墳（崇神陵）によく似る。確認調査により、埴輪片少量が発見される。

*戦国時代「美和山城」として再利用され、後円部端、前方部端に土塁が残存する。

○2号墳（蛇塚）

直径 34m の円墳

北、東、南で葺石基底部の石積みが発見される。

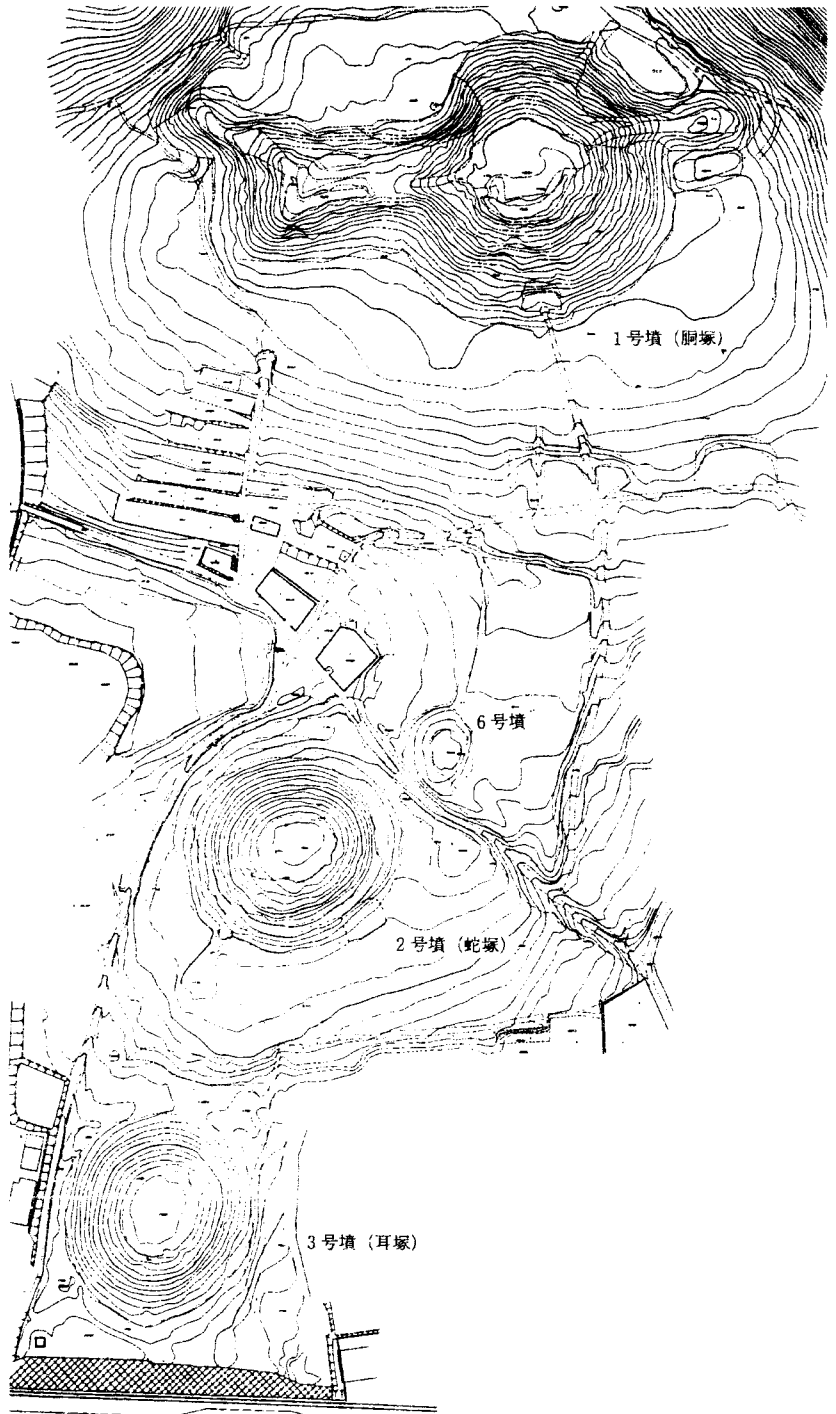
埴輪片が発見される。

○3号墳（耳塚）

直径 38m の円墳

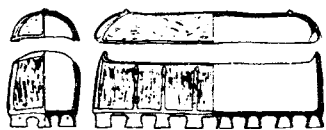
北および南の確認調査溝で葺石基底部が発見される。

円筒埴輪片多数発見される。

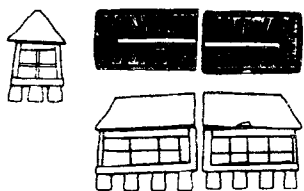


美和山古墳群墳丘測量図

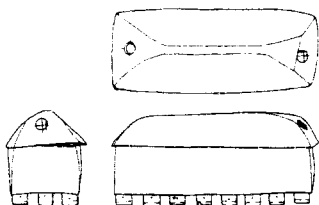
須恵質陶棺



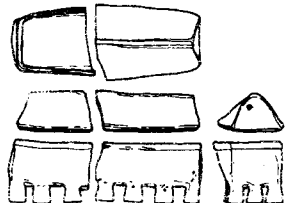
龜甲形 (岡山県山手村・ささら谷古墳)
 (鎌木義昌・間壁忠彦「郡窪郡山手村の陶棺」『吉備考古』91号 1956 一部改変)



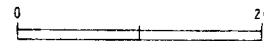
家形四注式 (岡山型) (津山市国分寺
 塚山付近)



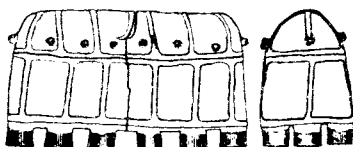
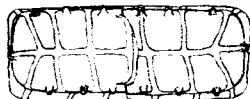
家形四注式 (畿内型) (京都市西京区・石
 見上里古墳) (吉岡博之・木村泰彦「山
 城地方出土陶棺集成」『長岡京跡発掘調
 査研究所調査報告書』第1集 1979)



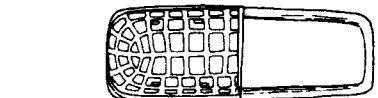
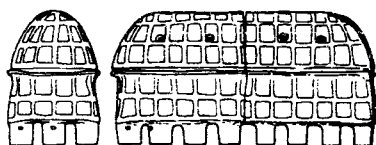
家形切妻式 (岡山県山陽町・吉原1号墳)
 (西川宏・別武忠直「備前山陽町吉原古墳群の
 陶棺」『古代吉備』第1集 一部改変 1958)



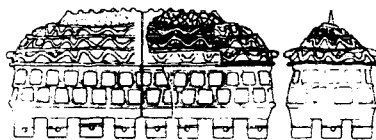
土師質陶棺



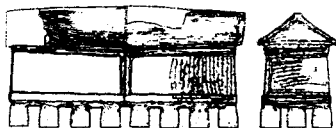
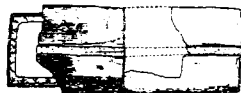
龜甲形 (岡山型) (岡山県久米町・コウデン2号墳)



龜甲形 (畿内型) (小島俊次・北野耕平「奈良市歌姫・
 歌姫横穴」『奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報』
 十二輯 1959 一部改変)



龜甲形 (特帯型) (総社市・こうもり塚古墳)
 (近藤義郎「こうもり塚古墳」『総社市史
 考古資料』1987)



家形切妻式 (岡山県久米町・釜田2号墳)

第5図 吉備の陶棺

資料作成：古墳研究部会 山口 哲晶